

仕事のやりがい

お客さまが、言葉にならないほど喜んでくださったり、「これがない生活は考えられない」と言ってくださったときにやりがいを感じます。

この仕事を始めたのは

働いていた職場で、人工ボディ製作を始めるようになり、女性のお客さまが多かったので、私も製作を始めました。

この仕事を自指す君へ

困っている人を笑顔にしたり、気持ちを前向きにしたりできる仕事です。人の役に立つ仕事をしたいと思っている人にも、向いている仕事だと思っています。



じんこう せいさく
人工ボディ製作

エピテーゼラボ アーテム
村田 弥生さん
うべししゅしん しものせきしげいじゅうれき なんめ
宇部市出身(下関市在住歴16年自)

仕事図鑑



このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。

体の一部を作っていく
並べられた指や耳は、血管も浮き出ている、ドキッとするほど、よくできています。この人工ボディは、生まれながらや、病気や事故で体の一部を失った方のために作られています。
製作に携わっている村田さんは、不安なことや、どんな時に使いたいのかななどお客さんから話を聞きます。それから、対象の部分の型を取り、それに粘土やろうを付けます。写真を見ながら体に合うように削っていきます。フリーコロンを流し込みます。フィット感を調整して、お客さんの肌にあうように着色していきます、完成します。
人工ボディが必要な方へ
人工ボディの製作には、4、5回来店が必要で、「遠くまで行かないと作れない」とあきらめている方もおられるのではと感じています。人工ボディが下関で作れることをもっと知ってもらいたいです」と話す村田さん。イベントなどで人工ボディを展示する活動などもしています。
人工ボディを喜んでくださるお客さんの笑顔が、村田さんを後押ししているようです。



耳は、左右対称ではなく、色が複雑なので難しいです。

心を込めた人工ボディ



少しずつ色を重ねながらの着色



ろうを削る作業